

令和5年度

# 事業計画書

社会福祉法人寿楽園

## 経営、運営に係る基本的な考え方

感染症対応のみならず、物価高騰や光熱費高騰等、昨年度から引き続き、施設運営に大きな影響を受けております。さらに次年度医療・介護保険制度の改正が控えており、給付費の抑制として介護保険サービス利用者の費用負担増、要介護1、2の総合事業移行の検討等、今後ますます従来の運営では太刀打ちできない状況になることは必至です。そして介護人財の採用は年々厳しさを増し、今後事業運営においては、まさに「人財確保と定着育成」は重要ミッションです。

その中で横浜第2期施設整備計画として特別養護老人ホーム（増築）を計画しておりましたが、直近の市内特養整備増に伴う待機者の減少と物価高騰の影響等を鑑み、当該計画だけでなく幅広く用地活用を検討します。そして今年度は、既存事業の運営安定に注力し、様々な環境変化の中でも持続的な成長ができる経営基盤を整備します。

近年コロナ禍での人員不足による負荷増によりストレスを抱える職員が増加しております。そのため、アンガーマネジメント研修等によるストレスマネジメントと共に、業務分解し、負担軽減に向け業務改善に取り組みます。そして導入を進めている新介護情報管理システム・ICT機器と併せて、居室カメラの導入を推進し、運用標準化を図り、サービス品質の向上と、効率的なサービス提供に取り組みます。

また、近年増加傾向にある介護現場のカスタマーハラスメント防止対策を強化し、「利用者を守る職員を法人が守る」を信念として掲げ、風通しの良く、安心して介護業務に従事できる職場環境整備に努めます。

さらに、引き続き、給与体系の見直しと管理監督職の階層を拡大するとともに、責務・権限、仕事の出来高（能力）に見合う適正な待遇を推進し、横浜第2期施設整備計画に向け管理監督職の育成を強化します。

最後に、あらゆる事業運営課題の中で、10年、20年先の事業の在り方を見据え、財務規律を強化します。拠点ごとの介護ニーズに合わせた事業の再編、そして介護・総務業務のDX化を進めます。求められる災害や感染時のBCPの取り組みを強化すると共に、コロナ禍でストップしていた地域や家族との直接的な関わりを再開し、法人が培ってきた開かれた施設づくり、地域に貢献できる事業運営に尽力します。そして職員各々が働き甲斐を感じる職場環境を整備し、人財の確保と定着・育成を図り、「利用者・地域・職員にとって三方良し」の社会福祉法人の運営に邁進します。